

Queen Mab はどこから来たのか

— *Romeo and Juliet* における Queen Mab speech をめぐって —

滝 川 睦

I

Wylie Sypher は *Four Stages of Renaissance Style: Transformations in Art and Literature 1400-1700* の中で、*Romeo and Juliet* (1595 年、以下 *Rom.* と略す) のアクションは、単純な幾何学的解法に基づくルネサンス期イタリア絵画を構成するような、綿密な比率で計算されていることを指摘している。コントラストを成す、*Rom.* のプロットの動きは、線遠近法 (linear perspective) の原理に基づいて描かれた絵画の、焦点に収斂する直交線の連結 (“the conjugation of lines in orthogonal space” 80) に似た形に配列されており、プロットの構成要素は明確な二項対立——Romeo に対する Paris と Mercutio、Juliet に対する Rosaline、the Nurse そして Lady Capulet、Tybalt に対する Benvolio、Romeo の愛と擬似英雄的な姿に対する Paris の気取った態度、Romeo の激情に対する Friar Laurence の分別——をなし、さらに芝居の価値観もシンメトリカルなパターン——愛情に対する憎しみ、宮廷風恋愛に対するロマンティックな愛、性急さに対する注意深さ、寛容に対する不寛容、機知と悲しみ、清純と官能、昼と夜、眠りと死、Montague 家と Capulet 家——を描いている (Sypher 80)。

ところが Sypher によれば、このように線遠近法の構図も想起させる、均衡のとれた *Rom.* の劇世界にあって、そこに収まりきれない登場人物がひとり存在しているという。Mercutio である——

...Mercutio suddenly retires behind the screen of superficial and artificial conflicts that does for a tragic action in *Romeo and Juliet*; and he too must be imagined in another dramatic context; he does not fit the structure of events at Verona and dies outside their pattern, saying, “A plague o’ both your houses!” (93-94)

本稿の目的は、「悲劇的アクションに有効な、表層的で人工的な対立というスクリーン」の背後に、Mercutio が退いていくかのような印象を与えている要因を、彼が語る Queen Mab speech (1.4.53-95)¹⁾ に焦点を合わせながら、実証的に検討することである。

II

従来の *Rom.* 研究において、Sypher が指摘するような、本劇の登場人物でありながら、同時に別の時空間の住人でもある Mercutio の像に、明確な輪郭を与えてみせたのは、*Shakespeare's Mercutio: His History and Drama* の著者 Joseph A. Porter である。Porter によれば、Mercutio が *Rom.* の劇世界に収まらないのは、ひとえに Mercutio に備わる、神 Mercury の重層的特性に起因することになる——

By the time of his [Mercury's] appearances in Homer, Hesiod, and the Homeric "Hymn to Hermes," the *herma* has become Hermes, herald or messenger of the gods, trickster and psychopomp (or, conductor of souls to the place of the dead), patron of thieves, merchants, shepherds, scribes, and travelers, and associated with manual skill, oratory and eloquence, luck and wealth, roads, wind, sleep, and dreams. (17)

神々の伝令そして使者、トリックスター、魂を冥界に導いていく案内者、盗人・商人・羊飼いや筆写者・旅人の守護神であると同時に、手仕事、雄弁と雄弁術、幸運と富、道、風、眠り、夢と深く結びついた神 Mercury が Mercutio の背後に控えている、というわけである。そしてとりわけ Queen Mab speech を Mercutio が語る時、彼は Mercury に取り付かれたような状態であり、Mercutio の姿から、Mercury がぼうっと立ち現れてくる可能性さえ Porter は指摘する (104) ——

MERCUTIO. O then I see Queen Mab hath been with you [Romeo].

She is the fairies' midwife, and she comes
 In shape no bigger than an agate stone
 On the forefinger of an alderman,
 Drawn with a team of little atomi
 Over men's noses as they lie asleep.
 Her chariot is an empty hazelnut
 Made by the joiner squirrel or old grub,
 Time out o' mind the fairies' coachmakers;

 And in this state she gallops night by night
 Through lovers' brains, and then they dream of love;
 O'er courtiers' knees, that dream on curtsies straight;
 O'er lawyers' fingers who straight dream on fees;
 O'er ladies' lips, who straight on kisses dream,

Which oft the angry Mab with blisters plagues
Because their breaths with sweetmeats tainted are.

.....
This is the hag, when maids lie on their backs,
That presses them and learns them first to bear,
Making them women of good carriage.

(*Rom.* 1.4.53-61, 70-76, 92-94)

しかし、Mercutio が「悲劇的アクションに有効な、表層的で人工的な対立というスクリーン」の背後に退いていくという印象を与えるのは、Porter が論じているように、Mercutio という名が Mercury を連想させるからとか、前者が後者の特徴を備えているから、と説明するだけでは不十分であろう。腹話術師のように Mercury が、Mercutio に Queen Mab speech を語らせるとき、そこで表象される、妖精の女王像の重層性こそ逆に、遠近法的構図に収まりきらない Mercutio の複雑さを生みだしているのではなからうか。

次章では、本劇が初演された当時の観客に、Queen Mab speech が強く連想させたに違いない二つの事件——どちらも妖精の女王が事件の首謀者と深く関連する事件——を検討することによって、Queen Mab 像の重層性を明らかにしたい。

III

1595年、London は Old Bailey の治安判事裁判所において、Judith Philips なる人物に、笞刑と市中引き回しの刑が宣告される。彼女の犯した罪は詐欺。次に引用するのは、刑の執行後、ほどなく出版された、事件の顛末を伝えるパンフレットの見出しである。

The Brideling, Sadling and Ryding, of a rich Churle in Hampshire, by the subtyll practise of one Judeth Philips, a professed cunning woman, or Fortune teller. With a true discourse of her unwomanly using of a Trype wife, a widow, lately dwelling on the back side of S. Nicholas shambles in London, whom she with her conferates, likewise cosoned. For which fact, shee was at the Sessions house without New-gate arraigned, where she confessed the same, and had judgement for her offence, to be whipped through the Citie, the 14 of February, 1594 [1594/95]
(Rosen 214-15)

詐欺の被害にあったのは、Hampshire の村 Upsborne 在住の吝嗇家である農夫。英国西部を股に掛けて詐欺を繰り返していた彼女は、くだんの吝嗇家に白羽の矢を立て、金を巻きあげようと画策する。彼女は、セイヨウヒイラギの木の下にあらかじめ埋めておいたエンジェル金貨と六ペンスを、さも自分が探し当てたかのような演技を農夫の前でしてみせたり、前もって調べてお

いた、係争中の訴訟を言い当てアドヴァイスすることで、農夫の信用を得る。十四ポンドの出費を覚悟すれば、さらに莫大な埋蔵金を手にすることができるという Judith の甘言に唆され、農夫は家の中で一番大きな部屋を、埋蔵金のありかを告げてくれるはずの「妖精の女王」(“the Queen of Fairies” Rosen 218) が降臨する聖域に模様替えする。部屋全体を極上のリンネルで覆い、部屋の五つの隅にロウソクを立て、その下にエンジェル金貨を供える、といった具合である。

それから Judith は、吝嗇家の背に馬の鞍を二本の腹帯で結わえつけ、男の頭には頭部馬具をつけさせたあげく、農夫の背にまたがり、セイヨウヒイラギの木と、聖域に見立てられた例の部屋との間を三度往復する。「妖精の女王様を出迎えに聖なる部屋に私が行っている間、三時間鞍をつけたままで、もちの木の下で腹這いになっていること」と彼女は言い置いて、部屋に戻っていく。頭からつま先まで女性用肌着で身をすっかり包み、杖を手にして「妖精の女王」になりました Judith は、再度農夫の前に姿をあらわす。しばらく農夫をからかった後、彼女は忽然と姿を消すふりをして、大急ぎで部屋に戻り、リンネルと五枚の金貨を掴むやいなや雲を霞と逃げてゆく。三時間たってもいっこうに Judith が姿を見せないのを不審に思った吝嗇家は部屋に戻り、事の真相を知って気も狂わんばかりとなる…… (Rosen 214-16)。²⁾

こうした妖精の女王の名を利用した詐欺事件は、Judith に刑が下された後も、後を絶たなかったらしい。Ben Jonson が *The Alchemist* (1610年) を創作するさいに取材した事件——1609/10年に Thomas Rogers なる若者が、妖精の女王との結婚を餌に、五、六ポンド巻き上げられた事件——などは、その典型である (Rosen 214, Sisson 740-41, Thomas 613)。

しかし Queen Mab speech を聞いた十六世紀末英国の観客は、Judith の事件が起こった時と、*Rom.* 初演の時期が近接しているという事実が示唆する以上に、鮮明にかの女詐欺師を思い出していたのではないか。なにしろ、Queen Mab speech の中で「女王=はすっぱ女」³⁾ (“Queen” 53) と呼ばれる Mab が夢の中で、恋人、宮廷人、法律家、淑女たち、牧師、兵隊の欲望を思う存分くすぐり、肥大化させ、ときにはその欲望に辛口の批評を加えるように、「人を欺くはすっぱ女=女王」(“cozening quean” Rosen 218) と呼ばれる Judith Philips も、吝嗇家の欲望を存分にかき立てたあげく、その欲望に頂門の一針を与えるのであるから。それと同時に、上に引用したパンフレットの見出しでは、Judith は「カニング・ウーマン」(“cunning woman”) と名指されているが、近代初期英国において「カニング・マン」や「カニング・ウーマン」が十八番とする業のひとつが夢占いであったことも、Judith Philips と、夢を支配する Queen Mab との類縁性を示しているといえよう (Thomas 240)。

だがそれ以上に、上記の事件の特異な点—— Judith が吝嗇家に馬乗りになり、「支配する女性 (“the woman-on-top” Davis 136)」の世界を現出させること——こそ、*Rom.* との近接性を雄弁に物語っていることに注意しなければならない。ただし、それはただ単に、馬乗りになる Judith のポーズが、「凱旋車」(“chariot” *Rom.* 1.4.59) を走らせたり、仰向けになった乙女に

のしかかり性愛を伝授する Queen Mab の体勢を連想させる (1.4.92-94) から、という理由からだけではない。金を騙しとられたうえに、馬の格好をして女詐欺師を背に乗せなければならなかった吝嗇家が、Rosaline にペトラルカ的な愛情をささげる、恋の憂鬱症 (Love-Melancholy) に苦しむ Romeo の姿を彷彿させるからである。

ROMEO. I am too sore enpierced with his [Cupid's] shaft
 To soar with his light feathers, and so bound
 I cannot bound a pitch above dull woe.
 Under love's heavy burden do I sink. (1.4.19-22)

ROMEO. . . . I have a soul of lead
 So stakes me to the ground I cannot move. (1.4.15-16)

BENVOLIO. No coz, I rather weep.

ROMEO. Good heart, at what?

BENVOLIO. At thy good heart's oppression. (1.1.181-82)

ペトラルカ風恋愛詩の常套的表現によって綴られた上の引用はいずれも、つれなき乙女 Rosaline に向けられた「恋の重さ」(“love's heavy burden”) や「心の重荷」(“heart's oppression”) に堪えかねて呻吟する、「鉛の心」(“a soul of lead”) をもつ Romeo を的確に表現している。

この章の冒頭で引用した、Judith Philips が起こした事件の顛末を語ったパンフレットには、一枚の木版画—— Hans Baldung Grien の手になる版画 *Aristotle and Phyllis* (1513 年, Roberts 65) と全く同じ構図で彫られたもの——が添えられている。その版画では、ちょうど Aristotle に馬乗りになっている侍女 Phyllis と同じポーズで、Judith Philips が右手で金貨の入った袋をにぎりしめ、左手で馬具を掴みながら吝嗇家の背に乗っているところが描かれている (Rosen 215)。Natalie Zemon Davis が指摘するように、*Aristotle and Phyllis* が近代初期における女性上位の世界を表しているとするならば (Davis 135-36)、Judith Philips が馬乗りになっている版画もまた、そうした世界を表象していると解釈することができるだろう。その意味で、Queen Mab speech が語られる以前に展開される、*Rom.* の女性上位世界——ペトラルカ風恋愛詩のコードに則り (Forster 15)、サディスティックな Rosaline が マゾキスティックな Romeo を支配する世界——と、Judith Philips が Upsborne に出現させた女性上位の世界は照応しているのである。

Queen Mab が、近代初期英国の人びとの不安をかき立てる存在であったことを、さらに別な形で示しているのが、次に挙げる、王室裁判所 (the King's Bench) に送られた起訴状 (indictment) で述べられている、1451 年に Kent 州で起きた事件である。

It is to be inquired for the king whether John Jope, son of Nicholas Jope of

East Grinstead, Sussex, yeo., Richard Skynner of the same, lab. <po. se. ff.>, William Colman, yeo. <po. se. ff.>, John Shepherd, yeo. <po. se.>, Thomas Lye, yeo., John Ingram, yeo. <ff.>, John Skynner, yeo., Walter Uden, husb., James Uden, lab. <po. se. ff.>, Thomas Emery, husb. <po. se.> and John Stone, husb. <po. se.>, all of Hartfield, Sussex . . . with others unknown to the number of one hundred men in riotous manner and arrayed for war, viz. with “jakkes”, “saledes”, “brygandes”, “brestplates”, hauberks, cuirasses, lances, bows and arrows, and covered with long beards and painted on their faces with black charcoal, calling themselves servants of the queen of the fairies, intending that their names should not be known . . . broke into a park of Humphrey, Duke of Buckingham, called “Redeleff” [Redleaf] at Penshurst and chased, killed and took away from the said park 10 bucks, 12 sores and 60 does belonging to the said duke; against the king’s peace and the form of the statute of parks and fish-ponds lately issued.

Dorse: True bill. By Robert Haler and his fellows.

Taken 29 June 1451 at Tonbridge before [justices . . .].

[List of jurors . . .]

ve. fa. 30 June 1451 at Tonbridge. (Du Boulay 254-55)⁴⁾

長いひげをつけ、炭で顔を黒く塗り、武装をした Kent 州の抗議者たちが、自らを妖精の女王の家来と称しながら、Buckingham 公爵の狩猟園に押し入り、雄鹿、雌鹿を殺し運び去ったこの事件は、1450年1月、Jack Cadeの反乱の余燼がまだくすぶる中で起こった事件——妖精の女王を僭称する人物が暴動を企てた事件——を真似して行われたものであったらしい (Purkiss 106-07)——

Item the moneth of Janyver oon calling hym self Queen of the feyre yede into Kent and Essex and did noon oppression nor hurt to any persone.

(Flenley 127)

民衆の想像力の中で、妖精の女王と境界侵犯の概念が結びつき、“the queen of the fairies” という言葉が反乱・暴動を扇動する記号として機能していたことは、Davis が詳述しているように、近代初期英国だけに限られたことではなかったようである。1770年代のフランスの Beaujolais で、農民たちが顔を黒く塗り女装して、新しい領主に仕える測量士を襲撃したときにも、「襲撃は妖精たちの仕業」とうそぶいていたことが記録に残されているからである (Davis 147-48)。Rom. の場合、一幕四場の Queen Mab speech ——狩猟園で狼藉を働いた抗議者たちの変装のヴァージョンとも言える、仮面 (“the beetle brows” 1.4.32) をつけた Mercutio の言葉——が喚起する境界侵犯・暴動・騒擾のイメージは、Capulet 家の仮面舞踏会 (一幕五場)

でささやかれる、境界侵犯・反乱を示唆する言葉、さらに劇冒頭で展開される Capulet 家と Montague 家の争い、さらに Mercutio と Tybalt が命を落とす三幕一場の若者たちの騒擾へと確実に浸透している——

CAPULET. You [Tybalt] 'll make a *mutiny* among my guests. . . .

(1.5.79, イタリック筆者)

TYBALT. . . . but this *intrusion* shall

Now seeming sweet, convert to bitt'rest gall. (1.5.90-91, イタリック筆者)

JULIET. Then have my lips the sin that they have took.

ROMEO. Sin from my lips? O *trespass* sweetly urg'd.

(1.5.107-08, イタリック筆者)

PRINCE. *Rebellious* subjects, enemies to peace. . . .

(1.1.79, イタリック筆者)

その意味で、次に引用する Benvolio の台詞では、仮面舞踏会用の前口上 (prologue) の必要性そのものが否定されているけれども、実は Queen Mab speech 自体が、暴動・騒擾の危険を常にはらんだ仮面舞踏会そして本劇全体の前口上となっていると言えよう。

ROMEO. What, shall this speech be spoke for our excuse?

Or shall we on without apology?

BENVOLIO. The date is out of such prolixity.

We'll have no Cupid hoodwink'd with a scarf,

Bearing a Tartar's painted bow of lath,

Scaring the ladies like a crowkeeper,

Nor no without-book prologue, faintly spoke

After the prompter, for our entrance. (1.4.1-8)

1451年に起こった、Buckingham 公爵の狩猟園への襲撃事件を、Shakespeare が知っていたことを裏付ける資料はないが、彼が妖精の女王と民衆の反乱との関連性について知悉していたことは間違いない。Theodore Leinwand や Annabel Patterson が指摘するように、*A Midsummer Night's Dream* (1595-96年)における次の台詞に、1596年11月にOxfordshireで起こった、囲い込みに反対する暴動——*A Midsummer Night's Dream*のAthensの職人たちを想起させる、大工 Bartholomew Stere と粉屋 Richard Bradshawe が首謀者となった事件——の引き金となった田園の惨状が影を落としているとするならば (Patterson 55)、Athensの職人 Bottom と一時的であるにせよ、手を結ぶ妖精の女王 Titania は、Shakespeare の想像力の中

で境界侵犯・暴動と密接に結びつけられていたはずである。

TITANIA. The ox hath therefore stretched his yoke in vain,
 The ploughman lost his sweat, and the green corn
 Hath rotted ere his youth attained a beard.
 The fold stands empty in the drownèd field,
 And crows are fatted with the murrion flock;
 The nine-men's-morris is filled up with mud,
 And the quaint mazes in the wanton green
 For lack of tread are undistinguishable. (2.1.93-100)

とくに、*Rom.* が創作され、初演されたと考えられる 1595 年には、次に引用する、London 市長と上級議員 (Aldermen) から枢密院に宛てた手紙 (1595 年、9 月 13 日付け) に記されているように、公衆劇場で演じられる芝居と民衆の暴動の関連性が、演劇排斥論者たちによって問題視されていたことにも注意しておきたい。

. . . for the suppressing of the said Stage Plaies, aswell in respect of the good government of this Cytie . . . as for conscience sake being perswaded . . . that neither in policye nor in religion they ar to be permitted in a Christian Common wealthe, specially being of that frame & making as vsually they are, & conteyning nothing but profane fables, Lasciuious matters, cozonning dezives, & other vnseemly & scurrilous behaviours, which ar so sett forthe, as that they move wholly to imitacion & not to the avoyding of those vyces which they represent, which wee verely think to bee the cheef cause, aswell of many other disorders & lewd demeanors which appeer of late in young people of all degrees, as of the late stirr & mutinous attempt of those fiew apprentices and other servantes, who wee doubt not drier their infection from these & like places.
 (Chambers 318)

この手紙にある “the late stirr & mutinous attempt of those fiew apprentices and other servantes” とは、1595 年に起こった若者たちの暴動をさす。とくに 6 月 29 日 (日曜日) の夕刻には、一千人もの徒弟たちが鉄砲製造業者の店を襲撃しようと、Tower Hill めざして行進していく途中で、彼らを押しとどめようとした役人たちに石を投げ、Cheapside に設置されていたさらし台 (pillories) を壊し、当時不人気だった市長 Sir John Spencer の家の前に絞首台を建てたと伝えられる (Archer 1, Griffiths 163, Rappaport 12-13)。実際は上に引用した手紙に記された、市当局の劇場を閉鎖しようとする動きや徒弟たちの暴動と *Rom.* とのつながりは、はっきりとは解明されていない。しかし、若者たちの不満のはけ口が、暴動・反乱へと向かう傾向のあった近代初期英国において、本劇に描かれた、殺人事件にまで発展する若者たちの争い、そし

て境界侵犯・暴動・騒擾を惹起する記号とでも言うべき Queen Mab の存在が、当時の観客の不安をかき立てたことは間違いないのである。

IV

Mercutio の守護神 (genius) とでも呼ぶべき Mercury が支配する領域に、窃盗、雄弁、境界性が含まれていたことを考慮に入れるならば、前章で検討した二つの事件の首謀者——Judith Philips と Kent 州の抗議者たち——はともに、Mercury の眷属であると言えるであろう。

ここで Mercury と Queen Mab の類縁性を示す、もうひとつ別のエピソードに注目しておこう。次に引用するのは、1578 年、Norwich を訪れた Elizabeth I の御前で披露されたパジャント (pageant) —— Mercury がプレゼンター役 (presenter) を務め、精霊が宙に舞う壮麗な「凱旋車」(“Coatch”) が披露されるパジャント——の記録である——

MERCVRIE as he came, passed away, at whose Coatch the people (that had seldome seene such a Deuice) maruelled, and gazed very much But the Coatche was made and framed on such a fashion, as few men haue seene: the whole wherof was couered with Birdes, and naked Sprites hanging by the heeles in the aire and cloudes, cunningly painted out, as thoughe by some thunder cracke they had bene shaken & tormented, yet stayed by power deuine in their places, to make the more wonder and miraculous Shew. And on the middle of that Coatch stooede a high compassed Tower, bedeckt with golden and gay iewels, in the top whereof was placed a faire plume of whyte feathers, all to bespangde and trimmed to the most brauerie: MERCVRIE himself in blew Satin lined with cloth of gold, his garmentes cutte and slashed on the finest manner, a peaked hatte of the same coloure, as though it should cutte and seuer the winde asunder, and on the same a payre of wings, and wings on his heeles lykewise. And on his golden rodde were little wings also, aboute the whiche rodde, were two wriggling or scrawling Serpentes, whiche seemed to haue life when the rodde was moued or shaken. (Galloway 303)

Shakespeare が、「凱旋車」(“chariot”) を疾駆させる Queen Mab の凱旋を着想したとき、彼の頭の中に、Norwich で催されたパジャントがその雛形としてあったのか、あるいは Minor White Latham が指摘する、1575 年に Woodstock で同じく Elizabeth I のために考案されたパジャント——六人の子供が牽引する、妖精の女王の「山車」(“wagon” Latham 195) が登場するパジャント——がそのプロトタイプとしてあったのかは、定かではない。しかし確かなことは、Queen Mab の凱旋が、古代ローマ以来の凱旋 (triumph) の伝統に倣していること、⁵⁾と

ころがそれにもかかわらず、伝統的な凱旋には不可欠な、中心のシンボリズムとでも言うべきものが Queen Mab の凱旋には欠落していることである。Alastair Fowler は、凱旋式に備わるべき、そうした中心のシンボリズムについて次のように述べている――

An outstanding feature of triumphal motifs is their emphasis of the centre. This position once carried a generally recognized iconological significance: it was the place, if not for an image of sovereignty, at least for a 'central feature' (to use an idiom still current). The sovereign might occupy either the centre of a circle, such as the zodiacal border of an imperial coin, or the mid point of a linear array, as when a throne was placed at the centre of one side of a table. In the linear form, elaborate symmetries often surround the significant middle point. (23)

なるほど、Queen Mab が「小さな生き物たちの一団」(“a team of little atomi” 1.4.57) が引く凱旋車の中央に鎮座していることは確かであろう。だがしかし、前章で検討した二つの事件、そして Horace Howard Furness をはじめとする *Rom.* の注釈者たちが提出する、数多くの妖精の女王の「起源」が示しているように、Queen Mab 像は近代初期英国の観客の想像力の中で、数限りない焦点を結び、決してひとつの妖精の女王像に収斂することはないのである。

Judith Philips の詐欺事件そして Buckingham 公爵の狩猟園襲撃事件がその中に含まれる、Queen Mab の「起源」は、Mab を神 Mercury に限りなく近づける一方で、Mercurio の言葉から析出される Mercury の属性が多岐に分化していたように、Queen Mab 像をそれこそ限りなく分裂させるのである。

Mercurio が、本劇のシンメトリカルな構図に収まりきらず、「悲劇的アクションに有効な、表層的で人工的な対立というスクリーン」の背後に退いていくかのような印象を与えているのは、彼が Mercury の化身であることに加えて、Queen Mab が重層的で、とらえどころのない存在であるということに起因しているのである。

注

* 本稿は第41回シェイクスピア学会(2002年10月12日、於 東京女子大学)における研究発表「Queen Mab はどこから来たのか」の原稿を、平成15年度科学研究費補助金[基盤研究(C)(2) 課題番号15520165]による研究成果に基づき、加筆修正したものである。なお、本稿の校正中に、Pamela Allen Brown 著 *Better a Shrew than a Sheep: Women, Drama, and the Culture of Jest in Early Modern England* (Ithaca: Cornell UP, 2003) を入手した。Brown は第5章において、Judith Philips の事件と *The Faerie Queene* 第I巻(1590年)、*A Midsummer Night's Dream*、*The Merry Wives of Windsor* (1597年)、そして *The Alchemist* との関連性について論じている。

1) *Rom.* の引用および行数は、Arden 版の *Rom.* に拠っている。

2) Judith Philips が起こした詐欺事件の顛末は、Henry Chettle の *Kind-Harts Dreame* (London, 1592?) にも収録されている。

3) Queen を quean の地口と解釈することについては、Evans 77 の Queen Mab に関する注を参照。

4) 起訴状中の〈po. se. ff.〉の“po. se”は「無罪を主張する」(*ponit se*)を、“ff.”は「罰金を科せられ

る」(*finem fecit*) を表している。

- 5) 古代ローマの凱旋式はカーニヴァルの側面を有し、兵士たちがみだらな歌や、風刺的な歌を歌いながら行進に加わったことと (Miller 1)、Queen Mab speech に性的・風刺的要素が備わっていることは無関係ではない。

引用文献

- Archer, Ian W. *The Pursuit of Stability: Social Relations in Elizabethan London*. Cambridge: Cambridge UP, 1991.
- Chambers, E. K. *The Elizabethan Stage*. Vol. 4. Oxford: Clarendon, 1923. 4 vols.
- Chettle, Henry. *Kind-Harts Dreame*. London. [1592?] . STC 5123.
- Davis, Natalie Zemon. *Society and Culture in Early Modern France*. Stanford: Stanford UP, 1965.
- Du Boulay, F. R. H, ed. *Documents Illustrative of Medieval Kentish Society*. Kent Records 18. Ashford: Kent Archaeological Society, 1964.
- Evans, G. Blakemore, ed. *Romeo and Juliet*. The New Cambridge Shakespeare. Cambridge: Cambridge UP, 1984.
- Flenley, Ralph, ed. *Six Town Chronicles of England*. Oxford: Clarendon, 1911.
- Forster, Leonard. *The Icy Fire: Five Studies in European Petrarchism*. Cambridge: Cambridge UP, 1969.
- Fowler, Alastair. *Triumphal Forms: Structural Patterns in Elizabethan Poetry*. Cambridge: Cambridge UP, 1970.
- Furness, Horace Howard, ed. *Romeo and Juliet*. A New Variorum Edition of Shakespeare. New York: Dover, 1963.
- Galloway, David, ed. *Norwich 1540-1642*. Records of Early English Drama. Toronto: U of Toronto P, 1984.
- Griffiths, Paul. *Youth and Authority: Formative Experience in England 1560-1640*. Oxford: Clarendon, 1996.
- Jonson, Ben. *The Alchemist*. Ed. F. H. Mares. London: Methuen, 1971.
- Latham, Minor White. *The Elizabethan Fairies: The Fairies of Folklore and the Fairies of Shakespeare*. New York: Columbia UP, 1930.
- Miller, Anthony. *Roman Triumphs and Early Modern English Culture*. New York: Palgrave, 2001.
- Patterson, Annabel. *Shakespeare and the Popular Voice*. Oxford: Blackwell, 1989.
- Porter, Joseph A. *Shakespeare's Mercutio: His History and Drama*. Chapel Hill: U of North Carolina P, 1988.
- Purkiss, Diane. "Old Wives' Tales Retold: The Mutations of the Fairy Queen." *'This Double Voice': Gendered Writing in Early Modern England*. Ed. Danielle Clarke and Elizabeth Clarke. London: Macmillan, 2000. 103-22.
- Rappaport, Steve. *Worlds within Worlds: Structures of Life in Sixteenth-Century London*. Cambridge Studies in Population, Economy and Society in Past Time 7. Cambridge: Cambridge UP, 1989.
- Roberts, Jeanne Addison. *The Shakespearean Wild: Geography, Genus, and Gender*. Lincoln: U of Nebraska P, 1991.
- Rosen, Barbara, ed. *Witchcraft*. The Stratford-upon-Avon-Library 6. London: Arnold, 1969.
- Shakespeare, William. *A Midsummer Night's Dream*. Ed. R. A. Foakes. The New Cambridge Shakespeare. Cambridge: Cambridge UP, 1984.
- . *Romeo and Juliet*. Ed. Brian Gibbons. The Arden Shakespeare. London: Methuen, 1980.
- Sisson, C. J. "A Topical Reference in *The Alchemist*." *Joseph Quincy Adams: Memorial Studies*. Ed. James G. McManaway et al. Washington: Folger Shakespeare Library, 1948. 739-41.
- Sypher, Wylie. *Four Stages of Renaissance Style: Transformations in Art and Literature 1400-1700*. Gloucester, Mass.: Smith, 1978.
- Thomas, Keith. *Religion and the Decline of Magic*. New York: Scribner's, 1971.